スポーツくじ
toto BIG

Dance Dance Dance
ダンス ダンス ダンス

WDSF世界ダンススポーツ選手権
シニアⅣ スタンダードin長野

第13回オールジャパンジュニア ダンススポーツカップ2018

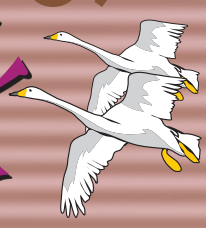
第1回全日本PD10ダンス選手権

2018ダンススポーツグランプリin仙台
2018PDグランプリカップスタンダード

第3回ユースオリンピック
DanceSport-Breaking 金2・銅1メダル獲得!

JDSF
公益社団法人
日本ダンススポーツ連盟
Japan DanceSport Federation

2018 No.89
秋



JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE
公益財団法人 日本オリンピック委員会

TOKYO 2020

WDSF世界ダンススポーツ選手権シニアⅣ スタンダード in 長野

2018年7月14日(土)／長野市ホワイトリング

国歌独唱（岡田　瞳）

優勝 Renato Sibillo - Anna Cartini組（イタリア）

ホワイトリング

選手宣誓　岩瀬純夫・
岩瀬恵里子組と
山田淳大会副会長
（JDSF専務理事）

2018年世界ダンススポーツ選手権シニアⅣスタンダードが、7月14日、世界15の国と地域から114組が出場し、オリンピックゆかりの長野市ホワイトリングメインアリーナで開催されました。

百瀬芳正長野県DS連盟会長（前列左から４人目）と役員の皆さま

7月13日（金）ウエルカムパーティ

世界選手権の前日７月13日（金）、ウエルカムパーティがホテルメトロポリタン長野において開催されました。世界ダンススポーツ連盟（WDSF）の役員や審判員に、公益社団法人日本ダンススポーツ連盟（JDSF）の役員や審判員も加わり和やかな雰囲気の中、鵜崎清貴国際本部長の司会進行で始まりました。

冒頭、山田淳大会副会長（JDSF専務理事）の挨拶は流暢な英語でスタートし、「長野も炎暑です。大変ですが、皆様のサポートにより大会を成功に導きたいので、よろしく！」と挨拶、そして鵜飼慶司アジアダンススポーツ連盟（ADSF）会長（国際本部担当特任顧問）の乾杯で会食に入りました。

山田淳
専務理事

鵜崎清貴
国際本部長

鵜飼慶司
ADSF会長

審判員と大会役員

大会チェアパーソン（Chairperson）を務めるオーストリアのWolfgang Eliasch氏の挨拶、出席者の紹介とスピーチもあり、大変楽しい交流のひとときを過ごし、明日から始まる大会運営の成功を誓い合いました。

7月14日（土）開会式

WDSF旗・JDSF旗・日本国旗を先頭に、各国選手、審判員の入場行進、そして国歌独唱は、今回の世界選手権の長野誘致に当初から大きな力を注いだ初代長野県ダンススポーツ連盟会長岡田明義・祐子ご夫妻のお嬢様、岡田瞳さまが務めました。

ご来賓の祝辞は、長野県を代表して轟寛逸長野県教育委員会教育次長が阿部守一知事に代わりご挨拶。「人生100年時代を迎え、ダンススポーツは世代を超えて楽しめる魅力的な生涯スポーツです。長野県は健康長寿日本一。皆様方の素晴らしいパフォーマンスを期待します」と話され、樋口博長野市副市長からは「長野市は1998年冬季オリンピックの開催地でもあり、“スポーツを軸としたまちづくり”を目指している。この大会が、長野市で華やかに盛大に開催されることに厚く御礼申し上げます」と歓迎の挨拶がありました。

轟寛逸長野県教育委員会教育次長

樋口博長野市副市長

WDSF代表Wolfgang Eliasch氏（オーストリア）の挨拶

記念の扇子

そしてWDSFを代表し大会チェアパーソンを務めるオーストリアのWolfgang Eliasch氏の挨拶が続きました。

選手宣誓は、日本の代表は岩瀬純夫・岩瀬恵理子組が務め、「スポーツの栄光とアスリートの名誉にかけ、スポーツマンシップに則り正々堂々と戦うことを誓い、長い人生の多くをダンスに助けられ、今日も踊り続けられることに感謝！」と、宣誓しました。

海外の代表はデンマークのKarsten Leth・Lise Herrestrup Leth組が行ないました。

審判員宣誓は、稲沢義一審判長とAnya Klimova-Preston審判員（アメリカ）。「すべての審判員と役員の名において、完全で公平なスポーツマンシップの真の精神と規則を尊重しジャッジメントする」と宣誓しました。

WDSF世界選手権シニアⅣスタンダード

Renato Sibillo・Anna Cartini 組（イタリア）

Luciano Ceruti・Rosa Nuccia Cappello 組（イタリア）

Vittorio Guida・Fortuna Canta 組（イタリア）

長野市ホワイトリングの外は熱波の暑い中、熱戦が繰り広げられました。年内に65歳以上と60歳以上の誕生日を迎える、人生でもベテランの選手が世界から集結です。ユース、アダルトなどの世界選手権出場は各国代表の２組に限られますが、シニアの世界選手権は各国の出場組数制限はありません。世界15の国と地域から114組が出場しました。

第１位から第５位まではイタリア選手が占め、さらに第10位もイタリア勢が入り、ダンススポーツが盛んなイタリア選手の活躍が目立ちました。

日本選手は岡田明義・岡田祐子組と、JDSF九州ブロック委員長を務める藍沢寛一・藍沢和子組が同点の第７位に入りました。

Alfredo Anselmi・
Anna Maria Pietrobelli 組(イタリア)

Duilio Castelli・
Paola Patrizi 組(イタリア)

Manfred Kerschner・
Monika Kuegler 組(オーストリア)

岡田明義・
岡田裕子 組(長野県)

藍澤寛一・
藍澤和子 組(大分県)

高橋修美・
高橋ひとみ 組(千葉県)

Alessandro Barbone・
Patrizia Flamini 組(イタリア)

Xavier Soria・
Roser Cadena 組(スペイン)

Terry Yeh・
Glendy Yeh 組(USA)

岩瀬純夫・
岩瀬恵理子 組(東京都)

ダンス世界大会で７位
宗賀の岡田さん夫妻
7位入賞を讃える地元紙の市民タイムス

JDSF全日本選手シニアⅢラテン

優　勝　清水　淳・清水日奈子 組(茨城県)
準優勝　田中克典・小山美香子 組(東京都)
第３位　清水久道・飯村美哉子 組(東京都)
第４位　綿貫龍一・植原英子 組(長野県)
第５位　鈴木真也・伊藤直美 組(京都府)
第６位　羽田和弘・小出美江子 組(長野県)

清水　淳・清水日奈子 組(茨城県)

ADSFアジアンオープンスタンダード

中国や台湾からも出場があり、中国のWu Hongbo組が優勝、決勝にも５組が入り、レベルの高さが際立ちました。日本からは菅原組が唯一決勝入りを果たし第４位と健闘しました。

優　勝　Wu Hongbo・Lu Wanying 組(中国)
準優勝　Wang Ye・Zhang Yingying 組(中国)
第３位　Wang Zhaoming・Cai Mengting 組(中国)
第４位　菅原一樹・Laura Collavizz 組(東京都)
第５位　He Yongshen・Qiu Pengji 組(中国)
第６位　Yang Haocheng・Qu Yuting 組(中国)

Wu Hongbo・
Lu Wanying 組(中国)

Wang Ye・
Zhang Yingying 組(中国)

Wang Zhaoming・
Cai Mengting 組(中国)

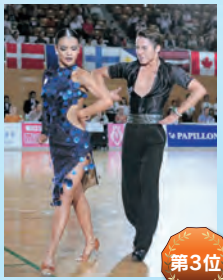
ADSFアジアンオープンラテン

菅原組、藤井組、大久保組、海老原組など、日本選手も頑張りましたが、健闘及ばず、中国のZhu Yingzhou組が優勝に輝きました。

優　勝　Zhu Yingzhou・Fan HongMing 組(中国)
準優勝　菅原一樹・Laura Collavizz 組(東京都)
第３位　藤井創太・吉川あみ 組(千葉県)
第４位　Roger Lin・Serena Lin 組(台湾)
第５位　大久保稔也・吉村春香 組(東京都)
第６位　海老原拳人・タカギルナ 組(千葉県)

Zhu Yingzhou・
Fan HongMing 組(中国)

菅原一樹・
Laura Collavizz 組(東京都)



藤井創太・
吉川あみ 組(千葉県)

ポンちゃんカッププレジュニアスタンダード

優　勝　東海林麻利・橋本沙樹 組（ジュニアDSC･長野）
準優勝　向山翔矢・山崎夢奈 組（キッズ向山スターズ）
第３位　高山　凛・中田美羽 組（おひさま隊）

ポンちゃんカッププレジュニアラテン

優　勝　向山翔矢・山崎夢奈 組（キッズ向山スターズ）
準優勝　高山　凛・中田美羽 組（おひさま隊）
第３位　宮崎里菜・広沢希々香 組（群馬県）

自らもダンスを楽しまれるポンちゃんカップの信陽食品㈱斉藤実社長ご夫妻

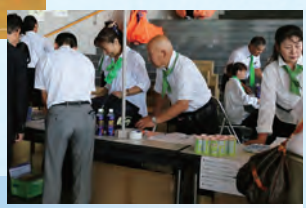
特別アトラクション

長野県の木遣りや信州上田の真田陣太鼓、さらに地元の方の車いすダンスも披露され、大会に華を添えました。

長野県の木遣り

信州上田の真田陣太鼓

車いすダンス



養命酒製造㈱、㈱ブルボンから飲料の提供をいただきました

7月15日（日）

WDSFオープン世界選手権シニアⅣスタンダード in NAGANO

世界９か国から合計68組が出場し、今日も炎暑の中、熱戦が繰り広げられました。前日の世界選手権第６位のManfred Kerschner組が優勝を果たし、地元長野県の岡田組が準優勝、学連東大OBの西尾組が第３位、藍澤組も決勝入りを果たし、日本選手の活躍も目立ちました。

優　勝　Manfred Kerschner・Monika Kuegler 組（オーストリア）（WDSF世界選手権シニアⅣSt ６位）
準優勝　岡田明義・岡田裕子 組（長野県）（WDSF世界選手権シニアⅣSt ７位）
第３位　西尾治一・西尾聖子 組（東京都）
第４位　Gerhard Salzgeber･Ingrid Salzgeber 組（オーストリア）
第５位　Armando Pelosi・Donata Annaratone 組（イタリア）
第６位　藍澤寛一・藍澤和子 組（大分県）（WDSF世界選手権シニアⅣSt ７位）

西尾治一・西尾聖子 組（東京都）

WDSFオープン世界選手権シニアⅢスタンダード in NAGANO（兼JDSF全日本選手権シニアⅢスタンダード）

シニアⅣより10歳若いシニアⅢ（年内に55歳以上と50歳以上の誕生日を迎える者）46組が覇を争い、今井組が４種目１位と実力を発揮し優勝に輝きました。

優　勝　今井正幸・今井由香 組（東京都）
準優勝　田中克典・小山美香子 組（東京都）
第３位　岡田　浩・岡田素子 組（熊本県）
第４位　石川誠一・石川美智子 組（新潟県）
第５位　谷口主嘉・谷口小夜子 組（京都府）
第６位　田中　豊・田中ひろみ 組（長野県）

今井正幸・今井由香 組（東京都）

WDSFオープンシニアⅠラテン

会場にはテレビカメラが入り館内がざわめく中、ロペス･キンタロー。組（岸英明・田中志保組）が登場し場内は大いに沸きました。ライバル名越組との優勝争いが注目されましたが結果は名越組が勝利。第３位にフィリピンの選手が入りWDSFオープンに相応しい競技になりました。

名越慎吾・名越明子 組（神奈川県）

岸　英明・田中志保 組（東京都）

優　勝　名越慎吾・名越明子 組（神奈川県）
準優勝　岸　英明・田中志保 組（東京都）
第３位　Anselmo Jr Estillore･Eleanor Hayco 組（フィリピン）
第４位　坂本弘文・坂本純子 組（福島県）
第５位　武田澄人・武田　歩 組（埼玉県）
第６位　清水　淳・清水日奈子 組（茨城県）

Anselmo Jr Estillore・Eleanor Hayco 組（フィリピン）

WDSFオープンアダルトスタンダード

優　勝　WU Hongbo・LU Wanyingr 組（中国）
（ADSFアジアンオープンスタンダード優勝）
準優勝　Wang YE・Zhang Yingying 組（中国）
第３位　小嶋みなと・盛田めぐみ 組（東京都）
第４位　Wang Zhaoming・Cai Mengting 組（中国）
第５位　菅原一輝・Laura Collavizza 組（東京都）
第６位　Samuele Pugliese・Federica Stavale 組（イタリア）

中国からの６組にイタリア１組を加え、日本のトップクラス、小嶋組、菅原組、大西組などが出場し、レベルの高い競技となりました。小嶋組が日本選手最高位の３位、小嶋みなと選手は「今日は全然、自分の踊りができなかった！」と残念そうに語りました。

小嶋みなと・盛田めぐみ 組
（神奈川県）

Wang YE・
Zhang Yingying 組（中国）

関東甲信越ブロック選手権PDスタンダード

優　勝　Alessandro Ilarioni・Aurora Sbardella 組（イタリア）
準優勝　久保田弓椰・徳野夏海 組（TEAM YUMIYA）
第３位　秋谷孝宏・田原美穂 組（エムズダンスアカデミー）
第４位　髙橋一昌・髙橋由紀子 組（幸手K＆Yダンスクラブ）
第５位　Adam Lu・Angela Yang 組（台湾）
第６位　黒澤秀成・三橋綾子 組（ダンスキューブミヤオカ）
第７位　市村誠寛・市村陽子 組（サイノ・ダンススクール）

関東甲信越ブロック選手権にイタリア、台湾の選手も参戦し日本選手と戦いました。７人の審判員は全員海外のジャッジ。強豪久保田組も頑張りましたが、イタリア組に水をあけられ準優勝に留まりました。

久保田弓椰・徳野夏海 組
（TEAM YUMIYA）

秋谷孝宏・田原美穂 組
（エムズダンスアカデミー）

Alessandro Ilarioni・
Aurora Sbardella 組
（イタリア）

関東甲信越ブロック選手権PDラテン

優　勝　久保田弓椰・徳野夏海 組（TEAM YUMIYA）
準優勝　西村康宏・鳥尾綾香 組（航空公園舞ダンススクール）
第３位　Adam Lu・Angela Yang 組（台湾）
第４位　川田　悟・長島あすみ 組
（大塚駅前・西所沢駅前アサノダンススクール）
第５位　兄後幸大・兄後智子 組（Any'sDancin）
第６位　加賀数大・宮内眞奈美 組（KagaダンススタジオAmi）

台湾からの参戦もありましたが、PDラテン戦常勝の久保田組が優勝を飾りました。

西村康宏・鳥尾綾香 組
（航空公園舞ダンススクール）

Adam Lu・
Angela Yang 組（台湾）

久保田弓椰・徳野夏海 組
（TEAM YUMIYA）

百瀬芳正実行委員長（長野県DS連盟会長）のコメント

「7月14日・15日の２日間に渡る世界選手権シニアⅣ大会では、世界各国から多くの選手をお迎えし、日本各地からご出場の選手、そして多数のお客様にお越しいただき、また、WDSF、JDSF本部、長野県DS連盟の皆さまにご協力いただき大変ありがとうございました。事故もなく無事終了し安堵しております。初めての世界大会運営で行き届かないところが多々あったかと思いますが、ご容赦ください。この大会を通じて長野県DS連盟の実行委員スタッフも素晴らしい体験ができました。必ずや私たち連盟のこれからの成長に大いに繋がったと思います。改めて、御礼申し上げます。」

百瀬芳正大会実行委員長（長野県DS連盟会長）（写真左）と大会を支えた高橋淳前長野県DS連盟会長（写真右）

スポーツくじ
この事業はスポーツ振興くじの助成を受けて実施されます。

第13回オールジャパンジュニアダンススポーツカップ2018 ジュニア・ユース世界選手権代表選考会

特別協賛　株式会社ブルボン　　7月29日（日）／BumB東京スポーツ文化館

7月28日（土）に予定されていた小学生、中学生のソロ競技やメレンゲ、サルサ競技などは、台風の影響で中止となりましたが、遠方からの選手は大会会場で調整に余念がありませんでした。翌7月29日（日）の開催も心配されましたが、無事予定通りBumB東京スポーツ文化館において、第13回オールジャパンジュニアダンススポーツカップ2018が開催されました。

今年からジュニア競技の優勝者には文部科学大臣賞が授与されることになりました。栄光のジュニアカップは、スタンダードは山本壮真・三喜真梨菜組、ラテンは高橋海・和田享華組が優勝。ユース競技はスタンダード、ラテン共に五月女光政・五月女叡佳組（ブルボンDST）が優勝、栄冠に輝きました。

大会顧問
秋元司衆議院議員
（環境副大臣兼内閣府副大臣）

山崎孝明江東区長

一ノ瀬初男
チェアパーソン

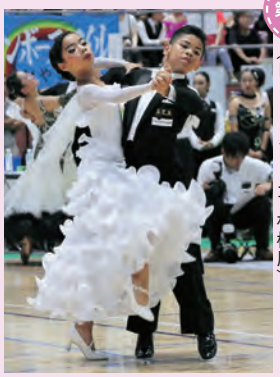
文部科学大臣賞争奪　ジュニア戦 スタンダード

中学2年同士、三喜さんは5年前姉（ユース準優勝の穂菜美さん）の勧めでダンスを始めました。姉妹で大活躍です！

優勝　山本壮真・三喜真梨菜組
（ジュニアアスリートクラブ）

準優勝　上岡裕人・降旗沙季組
（ダンスチームみやおか）

第3位　木下将希・片岡まりの組
（ダンスチームみやおか）


第4位　ホワイトン謙心・ホワイトン夏奈実組
（D.T.Sジュニア相模原）

第5位　吉田周平・馬谷真利亜組
（ジュニアアスリートクラブ）

第6位　井田海飛・井田真鈴組
（エンジェルキッス）

文部科学大臣賞争奪　ジュニア戦 ラテン

中学１年同士、これからも頑張ります！
優勝　高橋海・和田享華組
（ダンスチームみやおか）

準優勝　ホワイトン謙心・ホワイトン夏奈実組
（D.T.Sジュニア相模原）

第3位　木下将希・片岡まりの組
（ダンスチームみやおか）

第4位　山本壮真・三喜真梨菜組
（ジュニアアスリートクラブ）

第5位　小島獅桐・鈴木未来組
（ジュニアアスリートクラブ）

第6位　今西竜矢・今西心菜組
（TDance Production）

第7位　濱田琉成・鈴木桜咲組
（木嶋クラブ）

救護も準備万端

大活躍の選手係り

㈱ブルボン提供のお菓子と飲料

ユース戦　スタンダード

昨年はジュニア戦、今年はユース戦で、共にSt、Laダブル優勝の最強兄妹カップルです。とにかく嬉しい、世界選手権頑張ります！

優勝　五月女光政・五月女叡佳組（ブルボンDST）（同La優勝）

第3位　日比野湧・和野歩未組（ブルボンDST）（同La3位）

第4位　太田歩生・松本京佳組（ジュニアDSC大阪）（同La5位）

第5位　川本竜・川本弥由組（奈良県）

第6位　太田佳輝・岡田愛彩組（キッズ向山スターズ）

ユース戦 ラテン

準優勝　石垣和宏・三喜穂菜美組（ブルボンDST）（同St準優勝）

第4位　太田佳輝・岡田愛彩組（キッズ向山スターズ）（同St6位）

第6位　長谷川悠・安達あん珠組（かがやき生涯学習J教室）

ジュブナイル戦 スタンダード表彰式

優　勝　齋藤　隼一・小西　乙愛組（ダンスチームみやおか）
第４位　濱田　琉成・鈴木　帆南組（木嶋クラブ）
第５位　阿部　優翔・倉野　友花組（ジュニアアスリートクラブ）
第６位　齊藤清乃佑・勝木　里桜組（ジュネス）

優勝　齋藤隼一・小西乙愛組（ダンスチームみやおか）

ジュブナイル戦 ラテン表彰式

優　勝　津田琥汰朗・多和今日子組（ジュニアDSC大阪）（同St2位）
準優勝　吉岡　栄太・堀井日菜子組（山梨県）（同St3位）
第３位　斉藤　隼一・小西　乙愛組（ダンスチームみやおか）
第４位　足立　拓海・竹内　杏奈組（ダンスチームみやおか）
第５位　濱田　琉成・鈴木　帆南組（木嶋クラブ）
第６位　阿部　優翔・倉野　友花組（ジュニアアスリートクラブ）

優勝　津田琥汰朗・多和今日子組（ジュニアDSC大阪）

ベストマナーカップル賞に輝きました！

準優勝　吉岡栄太・堀井日菜子組（山梨県）

女子高校生　スタンダード表彰式

優勝

牧野果礼・佐野媛菜組（同Ｌａ優勝）（ジュニアアスリートクラブ）

女子高校生　ラテン表彰式

小学生1～3年　スタンダード表彰式

女子中学生　スタンダード表彰式

女子中学生　ラテン表彰式

小学生4～6年　スタンダード表彰式

小学生4～6年　ラテン表彰式

フリーダンスチーム対抗戦

優勝

LIL'FIY DANCE ENTERTAINMENT（東京都）

準優勝

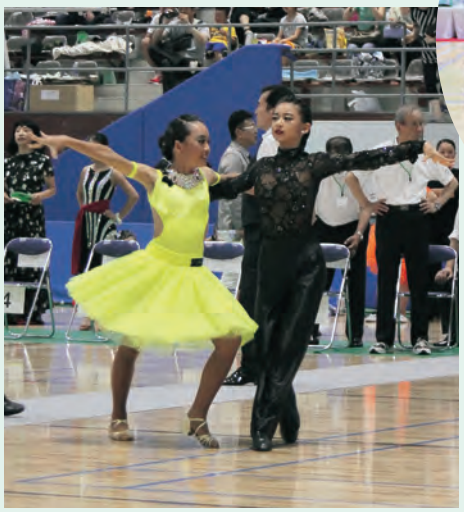
ハッピー HAPPYクローバー（富山県）

第3位

レインボースマイルとやま（富山県）

第４位　D.T.Sジュニア相模原（神奈川県）
第５位　からっ風の子（群馬県）
第６位　スピカクラブ（埼玉県）
第７位　ジュネス（東京都）
第８位　チーム茨城（茨城県）
第９位　スマイルジュニア（新潟県）
第10位　上越ジュニアダンススポーツクラブトッキー 's（新潟県）

小学生4-6年ラテン優勝
大西陽来里・安達りん檎組
（ハッピー Happyクローバー）



「リーダー役にすっかりハマって、気持ちが良い」と大西陽来里選手。将来は宝塚かな？昨年の三笠宮杯ラテン第３位、全日本戦やグランプリ戦のファイナル常連、海外でも活躍の大西大晶・大西咲菜組の妹さんです！

サルサチーム対抗戦

優勝　CHEE'S Seis SOL（東京都）

準優勝　レインボースマイルとやま（富山県）
第３位　ハッピー HAPPYクローバー（富山県）
第４位　LIL'FLY DANCE ENTERTAINMENT（東京都）
第５位　ひたちなかジュニア（茨城県）

溝口稔ジュニア育成部長

オールジャパンジュニアカップは、ジュニア育成部が、ジュニアダンススポーツ普及振興を目指す大会です。ダンスを始めて間もない子どもから世界のトップを目指すジュニア、ユースの選手まで、日本全国から全員集合してダンススポーツと触れ合い交流し、その中で将来性豊かなジュニア選手の発掘やジュニア指導員の研修、情報交換を図る催しとして、2006年８月20日、静岡市において第１回が開催されました。遠くロシアからカザコフ団長以下わずか９歳から年長は15歳までの５カップル10名の子ども達も出場し、大会後は茨城、長野、群馬を廻り、日露交流は2011年第５回長野大会まで続きました。富山県では現在もロシアとの交流は続いています。

Хорошо!（ハラショー） & Спасибо!（スパシーバ）

素晴らしい！　そして　ありがとう！

緊張の開会式

ロシアのジュニア選手にトロフィーを渡す仲野有紀理事

第1回 オールジャパン・ジュニアダンススポーツカップ'06 in 静岡が平成18年8月19日(土)と20日(日)の二日間にわたって、静岡市中央体育館において、開催されました。

（社）日本ダンススポーツ連盟の三大大会である、伝統ある国内最高峰の競技会「三笠宮杯」、JDSF最大最高の「東京インターナショナルオープン」、国体に準じた開催地で開催される「全国都道府県対抗選手権」に加えて、「オールジャパンジュニアDS」と称される当大会が将来の日本を代表するジュニア選手育成とオリンピック参加を目標に、第1回が開催されました。全国のジュニアダンススポーツ競技者が一堂に会し、連帯感を高め、技術向上を図ると共に、参加したジュニア競技者の中から将来性のある選手を発掘し育成するダンススポーツ競技会です。さらに、全国のジュニア指導者が参集し、研修及び情報交換を図り、一貫指導についての研究を行うことにより、ジュニアの底辺拡大に寄与する目的で多くのプログラムが組まれ、実行委員長の溝口稔ジュニア育成部長（JDSF競技本部長）は大活躍。来年は富山県で開催予定です。

ジュブナイルで優勝に輝いた10歳のシネードエヴァ・デニス&シアクロヴァ・エカテリーナ組

ジュブナイルで準優勝に輝いた9歳のソコロフ・ミハイル&アレクサンドロヴ・エリザヴエータ組

ユース・スタンダード優勝 森田康河&小和田愛子組

ジュニア・スタンダード・ラテン共に優勝 久保田弓樹&久保田健深組

ジュニアに出場した15歳と13歳のジュナコバ&テイオシロヴ組

ユースに出場した15歳のアニシン&マリク組

ユースに出場した16歳のマチュウヒン&ボロヴィコワ組

ユース・スタンダード3位 四戸賢治&四戸香織

ジュニア・ジュブナイルで大活躍した大橋祐希&大橋真空組

ユース・スタンダード入賞者（左から）
1位…森田康河&小和田愛子　2位…アニシン・アンドレー&マリク・ナタリア
3位…西戸賢治&西戸 香　4位…マチュウヒン・イリア&ボロヴィコワ・ユリアナ

プレジュニアⅠ（サルサ）入賞者

ジュニア・スタンダード入賞者（左から）
1位…久保田弓樹&久保田健深　2位…ジュナコバ・イリヤ&テイオシロヴ・アリーナ
3位…武井健太郎&田中桃花　4位…大橋祐希&大橋真空

4

第1回 オールジャパン・ジュニアダンススポーツカップ'06 in 静岡

8月20日（日）、静岡市中央体育館アリーナにおいて、第1回オールジャパンジュニダンススポーツカップ'06 in 静岡が、北海道や大阪府はじめ全国8都道府県から、また遠くロシアから5組のジュニア代表選手を加え、16競技区分に延べエントリー230組が出場して開催されました。

18歳以下のユース、15歳以下のジュニア、11歳以下のジュブナイルと、プレ競技としてのプレジュニアⅠ・Ⅱ・Ⅲ部門には幼稚園児から中学生まで大勢が参加してお互い良きライバル意識をもって競いあい、競技が終わってからも友好を暖めあいました。

競技会に先立って開催されたジュニア指導者机上・実技研修会にも全国から60名が参加して熱心に勉強し、この日に習得された全てが今後のジュニア指導に大いに役立つものと期待されます。

また、ロシアから小学3年生から高校1年生までの5カップル10名の選手が出場しました。大会後ロシア選手団は、競技会に参加した日本のジュニア選手たちと更なる交流を深めるため、22日（火）から24日（木）にかけて茨城、長野、群馬の各県を訪問しました。

体育館での小学生との交流、市長表敬訪問、ホームステイなど、それぞれ工夫を凝らした催しで歓迎された選手団は25日（金）、無事帰国しました。

★号令一つにも苦労の渡辺裕美さんのコメント
「主人の和昭と、いつの間にか子ども達の入選場のお手伝いをしていました。選手だった経験から子ども達に体力的に負担をかけないように、スムースに動けるように考えてみました。特に小さい子ども選手も多く、実際の競技会の要領（集合や入退場など）も判らない子も多く、時間の遅れもあり、一生懸命やっちゃいました!」（溝口さんはずいぶん助かりましたと感謝!!）

★通訳のターニャの言葉
「ロシアの子ども達は10歳ぐらいから洗濯、アイロンかけが出来ます。小さい女の子の髪は年長のお姉さん組が競技会用にきちんと結いました!」（大人の付き添いがいなかったのでどの様にしたのか気になったのでお聞きしました）

5

第1回オールジャパンジュニアダンススポーツカップ06静岡の模様を掲載したDDD41号

第3回ユースオリンピック（2018／ブエノスアイレス）

ブエノスアイレスの港風景

DanceSport-Breaking（ダンススポーツブレイキン）競技において金メダル2個、銅メダル1個を獲得!

入場証（リストバンド）▶

ユースオリンピックは、オリンピック同様IOC（国際オリンピック委員会）が主催する4年に1度開催される14歳～18歳までのユース世代のアスリートの祭典です。2018年10月6日～18日まで、アルゼンチン・ブエノスアイレスにおいて32競技241種目が行なわれました。日本代表選手団は、32競技中23競技に出場する選手91名（男子48名、女子43名）、監督・コーチ等44名の合計135名で編成されました。選手団長は小谷実可子JOC理事、卓球の張本智和選手が主将を、レスリングの鏡優翔選手が旗手を務めました。

ブレイキン競技は、IOCの国際競技団体（IF）であるWDSF（世界ダンススポーツ連盟）が開催する大陸別予選、川崎市で5月20日に開催された最終予選（DDD88号参照）を勝ち抜いた開催国アルゼンチンを含む男子12名、女子12名の選手によって競われます。男子個人（B-boys）、女子個人（B-Girls）ペア（Mixed Teams）の3種目が行なわれました。

ブレイキン日本代表

監督　石川　勝之（株式会社IAM）

男子個人（B-boys）　銅メダル獲得

半井（なからい）　重幸（しげゆき）（B-boy：Shigekix）
大阪学芸高等学校（2年）

女子個人（B-Girls）　金メダル獲得
ペア（Mixed Teams）　金メダル獲得

河合（かわい）　来夢（らむ）（B-Girl：Ram）
神奈川県立百合丘高等学校（2年）

ペア（Mixed Teams）種目は、ユースオリンピックの国際交流精神を反映したものとして実施され、Ramはベトナム選手と組み金メダルを獲得、女子個人と合わせ2冠を達成しました。

（詳報はDDD90号に掲載予定）

選手村

競技会場には場外まで多数の観客

インタビューボードの前で
石川監督、選手と応援団

女子個人（B-Girls）　表彰式

金メダル　河合　来夢
（B-Girl：Ram）の演技

銅メダル　半井　重幸
（B-boy：Shigekix）の演技

男子個人（B-boys）　表彰式

競技会前日の激励会

金メダル　ペア（Mixed Teams）
B-Girl：Ram（河合 来夢）とベトナムの
B-boy：B4の演技

ペア（Mixed Teams）　表彰式

マスコットも登場

ダンススポーツ世界トップクラスのデモが華を添えた！

全国スーパーマーケット協会 創立60周年記念大会

2018年9月19日(水)／グランドプリンスホテル新高輪「国際館パミール」

一般社団法人新日本スーパーマーケット協会（2018年１月現在、正会員312社約１万店舗、賛助会員906社）は、本年９月１日から名称を「一般社団法人全国スーパーマーケット協会」に変更。９月19日（水）、グランドプリンスホテル新高輪「国際館パミール」において協会創立60周年記念大会が開催され、全国の正会員・賛助会員、および業界関係者が一堂に会し、参加者は約2,100名に達しました。（公社）日本ダンススポーツ連盟のスポンサーである北辰商事㈱ロヂャース、㈱ブルボン、養命酒製造㈱などの社長をはじめ経営者も出席。川渕三郎氏（(公財)日本サッカー協会相談役）の記念講演もありました。そして懇親会では世界トップ選手２組が注目の中、華麗なデモンストレーションを披露し、式典に華を添え満場の拍手と花束が贈られました。

安倍晋三総理大臣は映像でご祝辞

協会常任理事を務める北辰商事㈱ロヂャース太田順康社長と山田専務理事、渡辺理事、神宮広報部顧問

横山清協会会長（㈱アークス社長）開会の挨拶

乾杯の音頭を取る國分勘兵衛国分グループ本社㈱会長

中締めの挨拶は増井徳太郎協会副会長㈱紀ノ国屋ファウンダー

世界トップの海外選手デモ

世界のトップ２組とJDSF役員

フランチェスコ・ガルッポ＆デボラ・パチーニ 組（イタリア）

アンドレイ・グセフ＆ヴェラ・ボンダレーワ 組(ロシア)

鏡割りの太田順康社長（右から３人目）と塩澤太郎養命酒製造㈱社長（右端）

山本武志・木嶋友美組は、公益財団法人日本ボールルームダンス連盟（JBDF）のスタンダード&ラテンともにプロA級、統一全日本10ダンス選手権では2011年に初優勝して以来４連覇達成。2016年６月の公益社団法人日本ダンススポーツ連盟（JDSF）のPD部門発足に伴いPD会員となり、内外の競技会で活躍。特に2017年９月、トルクメニスタン国で開催されたアジアオリンピック評議会（OCA）が主催する国際総合競技大会である「第５回アジアインドア･マーシャルアーツ大会」に日本オリンピック委員会（JOC）から日本代表選手として派遣され、見事に金メダルを獲得。昨年末はダンス界のみならず多くの国民の間で広く話題となった「輝く！日本レコード大賞」のダンスシーンでは、JDSFの10組の選手の振り付けを担当するなど大活躍。今年の東京オープン出場後、充電中の山本武志・友美ご夫妻からお便りが届きました。

最近の私たちとこれからのPD

山本　武志・木嶋　友美
（JDSF-PD関東甲信越選手会所属　シノダ・スポーツダンスクラブ）

先日長野で行なわれましたWDSF世界選手権シニアⅣ、静岡での全日本選手権ユース・ジュニア10ダンスにコーチングと観戦に行ってきました。

まずはWDSFの世界選手権が日本で開催されたこと自体がとても素晴らしいことだと感じました。実行委員の方、運営に関わった全ての方々、本当にお疲れ様でした。世界から集まった強豪たちの中で日本の選手も健闘していました！とても良い試合でした！

私たちは今回、静岡で併催されたPDグランプリへは参戦致しませんでしたが、フロアーの外からライバルの踊りを客観的に観ることができ、非常に良い勉強をさせて頂きました。ユース･ジュニアの子達も着実にレベルが上がってきていますね！！

最近、世界のPDではたくさん動きがありました。昨年はスタンダードのファイナリストのマルコ＆レティツィア組、そして日本でもとても人気の高いエマニュエル＆タニア組、今年は長年チャンピオンとして世界を牽引してきたベネデット＆クラウディア組の引退。素晴らしいキャリアを終えてフロアーを去っていくカップルがいる一方で、ターンPDをしてくる選手もだんだんと増えてきています。

アマチュアの元10ダンスチャンピオン、スタンダードファイナリストのビョルン・アシュリ組。彼等とは昨年末に世界選手権PD10ダンスで戦いましたが、圧倒的な強さで優勝でした（悔しいですがまた頑張ります）！　特に今年はラテンが熱い印象ですね。ものすごくパワフルでありながらも超技巧派のビンチェンソン＆サラ組、そして不動のアマチュアチャンピオンからの移籍のガブリエル＆アンナ組！

他にも若手の選手達にもターンPDするという選択肢が世界で少しずつ広まってきているようです。これはPDに所属している私たちにとって、非常に嬉しいことです。これからPDのレベルが上がって発展していくことと思います。

日本でもGDからの次のステージとして選んでもらえるように、JDSFの選手として踊り続けたいと思えるような魅力あるセクションになっていけるよう、今後も精力的に活動していきたいと思います。

PDが発足され２年ほど経ちましたが、私たちも所属しているPDの選手会では、メインの活動としてずっと続けているものがあります。PD−合同練習会というものです。これは選手会が発足したときに、これからJDSFの一員として私たちは何ができるだろうか？　とみんなで話し合って行き着いた企画です。毎回実行委員の選手がレクチャー､踊り込み､ワンポイントレッスンなどをメインに構成し、みんなで協力して開催しています。

PDの選手はダンスを教えることで生計を立てている人が多いので、自分たちの今までに培ってきた知識・技術を皆さんと共有する、そしてフロアーで一緒に踊り、試合のシュミレーションをすることで、GDの方たちのお役に少しでもなれたらという思いでやっています。興味のある方はぜひぜひご参加ください。同じJDSFの選手として、ダンススポーツを愛する者同士で有意義で楽しい時間を過ごせたら嬉しいです！！

引退を表明したベネデット・フェルッジア＆クラウディア・ケーラー組（ドイツ）

PD10チャンプのビョルン・ビッチュ＆アシュリ・ウィリアムソン組（デンマーク）

ターンPDしたカブリエレ・ゴッフレード＆アンナ・マトゥス（モルドバ）

富山県ダンススポーツ連盟発足25周年&認定NPO法人取得 記念祝賀会

2018年9月24日（月・休）／とやま自遊館 大ホール

撮影：吉田　進

荒井市郎副理事長（富山県DS連盟）の開会宣言

笹山治一理事長（富山県DS連盟）のご挨拶

黒田成則副理事長（富山県DS連盟）の中締め

髙田順一会長（富山県DS連盟）の歓迎の言葉

八木三郎副会長（富山県DS連盟）のお礼の言葉

元宝ジェンヌの夢羽美友さんとジュニア他が生演奏で演じた“越中万葉をダンスで楽しむ会”

富山県ダンススポーツ連盟の発足25周年ならびに認定NPO法人取得を記念する祝賀会が、富山駅北口から徒歩7分、環水公園に隣接する“とやま自遊館”を貸し切って盛大に開催されました。祝賀会では、堂故茂参議院議員、田畑裕明衆議院議員など、多くの関係者が祝辞を述べる中、11月3日からねんりんピック富山2018の中でダンススポーツ大会が開催される氷見市の林正之市長は「ダンススポーツは素晴らしい生涯スポーツです。ねんりんピックでは、私もサプライズダンスを披露できたらと考えています」と述べ、集まった参加者からひと際大きな拍手が贈られました。

設立当初から競技はもちろん生涯スポーツとしてのダンスの普及、とりわけジュニア育成に尽力してきた連盟の祝賀会だけあって、数多く出席した来賓・観客の前で演じられたデモには、レベルの高いジュニアダンサーが勢揃い。会員ひとり一人が主役となれるデモ披露から、笹山治一実行委員長の会員を思う熱い気持ちが伝わってきました。

そしてお楽しみの特別デモでは、まずJBDF中部スタンダードチャンピオンの小林潤一＆麻衣組、JDSF全日本シニアⅢスタンダードチャンピオンの今井正幸＆由香組、JDSF全日本両部門グランドファイナリストの大西大晶＆咲菜組が次々と登場して珠玉の演技を披露。ラストは元世界スタンダードチャンピオンのルカ＆ダリア・バリッキ組が華麗にタンゴ・ワルツ・スローを舞い、感動のフィナーレへ導きました。

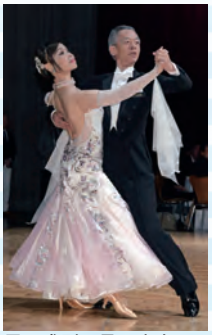
かがやき生涯学習ジュニア教室のフリーダンス“レインボースマイルとやま”

ハッピー Hapyyクローバーのチャチャチャ“ビーナス”

かがやきジュニアのソロデモ“踊るマジックショー”

富山県が誇るファイナリスト大西大晶＆咲菜組はラテンとスタンダードを披露

★往年のダンサー競演

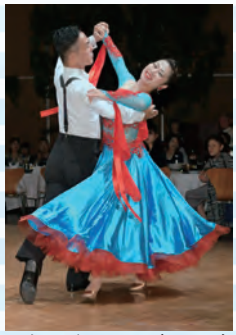

黒田成則＆晃子夫妻

笹山治一さんと渡辺裕美さん

渡辺和昭さんと笹山良子さん

★特別ゲストデモンスレーション

円熟の演技で魅せた今井正幸＆由香組


エネルギッシュに舞った小林潤一＆麻衣組

会場を感動で満たしたルカ＆ダリア・バリッキ組

第1回全日本PD10ダンス選手権

全日本PD10ダンス選手権決勝選手集合!

2018年7月1日(日)／西宇治体育館

京都府ダンススポーツ連盟理事 **谷口小夜子**

平成30年7月1日(日)、京都の南に位置する緑茶の生産地として有名な宇治市「西宇治体育館」において「第1回全日本PD10ダンス選手権」が行なわれました。

この試合はWDSF-PD10ダンス世界選手権派遣代表選考会となっており、優勝カップルは11月3日にポルトガルのビラノバにて、日本代表として戦います。

合わせて「第13回 京都府宇治ダンススポーツ競技会」も行なわれ、アルファベット級からプレジュニアやプレジュブナイル、シニア戦や市民総体も行なわれ、幅広い年齢層の方が参加してくださり、大変な盛り上がりとなりました。

しかし、この日は梅雨の中の晴天で体育館の中は高温多湿になり、選手は勿論、レベルの高いPD10ダンスを見ようと集まった観客の方にとっても、過酷な一日となりました。京都府DS連盟では、10ダンス出場メンバーの着替え場所をなるべく会場の近くに確保し、ストレス無く踊れるように環境を整えました。

今回はPD登録会員の200数名の内、PD10ダンスへは全国から14組のエントリーがあり、一次予選から熾烈な戦いが繰り広げられました。

13時過ぎに行なわれた、京都府ダンススポーツ連盟恒例の選手全員参加による入場行進」は毎回素晴らしく、PDの選手も全員参加し、とっても華やかな雰囲気となりました。大会副会長挨拶の後、仲野巽JDSF-PD本部副本部長よりのお言葉を頂き格式ある大会となりました。

選手宣誓は北海道より参加の久保田弓椰＆徳野夏海組。リーダーは元気一杯に、パートナーは高校生らしい可愛いい選手宣誓で、会場は和やかな雰囲気に包まれました。

第１回PD10ダンス開催にあたっては、それぞれの対応に当たられた多くの方の苦労もあり、試合開始から胸に込み上げるものがありましたが、それも選手のレベルの高さと観客の笑顔で全て帳消しとなりました。

10ダンスは、ラテン5種目SCRPJ、衣装を着替えてからスタンダード5種目WTVFQと踊り、10種目の総合計で勝ち上がっていきます。当日の審判員は9人ジャッジでしたので、フルチェックが90チェックとなります。

午後１時半からの一時予選はラテンからのスタートです。ファーストダンスのサンバから、選手はパワー溢れるダイナミックな踊りと、素晴らしいポフォーマンスで会場は瞬時にして歓声に包まれました。パソドブレは世界選手権と合わせ第3ハイライト迄ですので、観客の方はいつもより長い時間楽しむことができます。観客の直ぐ近くで踊ってくださるので、スピードとドレスの上からでも感じる筋肉の動きに会場全員が魅せられます。ジュニアの子ども達も身を乗り出しての大声援で、活気溢れる雰囲気となりました。

久保田弓椰·徳野夏海組の選手宣誓

ラテン5種目を踊った後は1時間半の休憩を挟み、エレガントなスタンダードドレスに着替えての再登場です。

スタンダードもまた、ドレスの裾が観客に触れながらのパフォーマンスに、皆歓声を上げながら応援に熱が入ります。

大熱戦の一次予選から10組が準決勝に進みました。着替えの回数をなるべく少なくするため、2次予選はスタンダードからのスタートです。観客の方が楽しめるように、そして選手がベストな踊りができるようにと、準決勝は２ヒートに分かれて踊っていただきました。準決勝も更に歓声が高まり、選手も踊りに磨きがかかりヒートアップしてきたように感じられました。

そして、17時から試合の締めくくりとなります「全日本PD10ダンス選手権決勝戦」は6組の戦いとなりました。決勝戦はラテンからのスタートで、一組ずつ背番号とお名前、所属ダンス教室の紹介と共にフロアーに入り、気合の籠った踊りとパフォーマンスに会場はため息が彼方此方から聞こえてき来ました。決勝を踊った選手は、この日30曲を踊り抜きました！

熾烈な戦いを制した優勝者は、背番号13番 久保田弓椰＆徳野夏海組。オナーダンスはスピード感あふれるダイナミックなタンゴ！ 最後まで応援していた観客は大きな感動の拍手でした。そして、鳴りやまない拍手に応え、これまた超スピードとパワフルなクイックステップ！ 最後には決勝メンバーも巻き込み、ジュニアの子ども達とのコラボで会場が笑顔で締めくくられました。

今回の「第1回全日本PD10ダンス選手権」に一生懸命にお世話をさせていただきました京都府DS役員、選手の方々のレベルの高い踊りと皆様の笑顔とで大成功を確信致しました。来年は更に参加選手が増えるように願います。

スタンダードA級戦

スタンダードB級戦

プレジュニア ラテン

ラテンA級戦

ラテンB級戦

プレジュブナイル ラテン

全日本PD10ダンス選手権

久保田弓椰・徳野夏海組

新屋秀和・滝川絵里組

田中和昌・國影美香組

岸田肇・岡田祐子組

西川和孝・大木美季組

真田清人・真田温子組

スタンダードシニアⅢA級戦

スタンダードシニアⅡB級戦

スタンダードシニアⅢB級戦

宇治市民総体W表彰式

宇治市民総体Ch表彰式

スタンダードシニアⅣB級戦

宇治市民総体T表彰式

宇治市民総体R表彰式

岩手大学競技舞踏部 創立50周年記念パーティ

2018年9月23日(日)／盛岡市西部公民館 プレーホール

岩手大学OB・OG会会長(実行委員長)
尾形　勇哉(H14卒)

岩手大学競技舞踏部は今年、舞踏研究会として発足50年目の大きな節目を迎えました。このことを記念し、舞踏研究会・競技舞踏部学生支援設立50周年パーティが盛大に開催されました。

2011年３月11日、東日本大震災により５月４日に盛岡で予定されていた第81回全東北学生競技ダンス選手権は、クラブ活動にも大きな影響を及ぼし、正式の競技会は困難となりました。そこで急遽「全東北学生ダンススポーツ大会　がんばろう東北!!」という形で岩手県営体育館において開催。同じダンスを愛好する一般市民と共にダンスシューズを履き、ダンスを楽しむ時間が設けられ、学生自身自分たちが楽しむ大会から、一般の市民の皆さまにも広く楽しんでいただけるダンス競技大会へと、大きく一歩を踏み出した大会でもありました。これを契機に岩手大学が主管する春大会は、一般市民の皆さまと学生選手やOB・OGと交流するダンスタイムが毎年開催されています。

吉田理輝主将の挨拶

記念すべきこの日の記念パーティにも、岩手県ダンススポーツ連盟(中道俊之会長)のご協力もあり、一般のダンス愛好家も多数参加、OB・OG、現役学生と合わせ約200名が参加し、プロデモや学生のデモ、ダンスタイムやミキシングを全員で楽しみました。

岩手大学は、50年の歴史の中で夏・冬の全日本戦でのファイナリストも多数誕生しました。中でも４種目総合で唯一の優勝カップルを決める全日本学生選抜戦(夏大会)では、チャンピオンが２組も誕生しています。2004年はラテン部門で須藤達矢・工藤綾組(岩手大学)が優勝、４位、10位を岩手大学が獲得、あわや全日本団体も初優勝かと思われましたが、スタンダード部門は全員一次予選落ちとなり、一橋大学に一歩及びませんでした. しかし、全日本団体準優勝を飾りました。そして２年前の2016年の全日本学生選抜戦では、同じくラテン部門で舘紳也・佐々木彩乃組(岩手大学)が優勝し、準優勝は阿部啓一郎・佐々木春菜組(東北大学)と、なんと全東北学連が１位、２位を占めるという歴史的な快挙を成し遂げました。

この全日本戦優勝を飾った２組も加わり、トップクラスのプロやターンプロした若手OB合計８組がデモを披露、50周年パーティに華を添えました。OB･OGや現役学生は、さらに二次会、三次会と流れ、親睦を深めた一日となりました。

クラブ創設初期の頃の皆さま

中道俊之JDSF理事・岩手県DS連盟会長

若林篤光顧問(岩手大学助教)は「とてもよい50周年行事です。神宮さんが育てた苗は、立派に50歳を迎えました。」とコメント。左はご来賓代表の神宮周二全東北学連副会長

老いも若きも、プロも、総出のダンスタイム

現役学生OB・OG集合写真

プロフェッショナルとして活躍中のOB・OGデモ

須藤達矢(H14卒)・庄司まゆ 組

小松拓哉(H21卒)・小松七菜 組

東海林祐介・立花　悠(H26卒) 組

舘　紳也(H28卒)・佐々木綾乃(H28卒) 組

東部日本夏季リーダーズキャンプレポート

東部日本学生競技ダンス連盟　広報担当理事・全日本派遣理事
前川　紘輝（東京農業大学4年）

2018年８月28～30日に東部日本学生競技ダンス連盟の夏季リーダーズキャンプが山梨県石和温泉にて開催されました。

東部日本リーダーズキャンプとは、東部日本学生競技ダンス連盟に在籍する加盟校33校（共同加盟校含む75校）から各校の連盟委員、評議委員、主将、技術部長が集まり、それぞれに課題をもって会議を行ない、一方では親睦を深めるための場としても、大きな役割をもっています。主将会議では新歓期（将来を担うべく４月の新入部員勧誘の大事な時期のことです）にどのようなことをして新入生を確保しているか等の情報交換をして、今後の学生ダンスを盛り上げられるよう議論をしています。

続いて今回の理事会では、連盟委員会における事務局、財務局、競技会運営局など８つある各部局の再編成を行ないました。

これは現行の部局では仕事の割り振りがされていない事項や、学校や部局によって仕事量に格差があり（過去と比べ部員増減がある大学が存在するため）、大会などの記録を担当する“記録部”という役職が実質機能していないなど不都合な点が多かったためです。

なお、以前の“学連便り”にも記載がありましたが、今この規約というのは学連の現状にはそぐわないところが多いというのが実情です。

しかし、各所の問題点が明らかになってきた今、私たちがよりよい組織になっていくための転換期であると思っています。そのためには学連として守っていかなければならないこと、変えていかなければならないことをしっかりと見つめなおし、後輩たちに受け継いでいくことが必要です。

変更点と致しましては、夏季期間の見直し・ジャッジ人数の変更・リーダーラテン衣装の見直し・外国人だけでなく日本人の方が開催される講習会に参加出来ることなどです。他にも近年増加傾向にあるシャドーカップルの立ち位置についての確認です。学連は学校を背景とした団体競技であるため、学校内でカップルを形成し、学校単位で競い合うものですが、近年では自ら立候補し他大学の子と組もうとする意思が見られ、処置に見舞われているのが現状です。

学連をしっかりと見つめなおす“会議”と、同期･先輩･後輩たちとの仲を深めることができる“交流”この二つを一緒に行なうことにリーダーズキャンプの意義があるのです。今回のイベントと致しましては、ワイン工場の見学やブドウを主としたパフェ作り体験など山梨でしか味わえないことを堪能しました。パフェ作り体験ではバスが一台しか使えないというトラブルもありましたが、行ってみてホントに良かった、楽しかった、と皆さんに好評でした。

私たちは１年ごとに運営が入れ替わってしまう特殊な組織です。去年からの政策として、仕事の引き継ぎがしやすいように下級生からも理事をやってもらっています。そのため会議が円滑に進み、より掘り下げられた議論が展開出来るため、学連のより良い発展に繋がるのではないかと思います。

今後も学連をより良くするため、ダンス界を盛り上げられるように尽力し、近い将来の“国体参加・目指せオリンピック”実現に向け日々奮闘していきますのでこれからも皆様の温かいご声援､宜しくお願い致します。

JDSF審判員公認研修会レポート

2018年8月25日(土)／DTC(ダンススポーツトレーニングセンター)

JDSF審判員公認研修・講習会（2018年後期）が、石原正幸・蘭羅組を特別講師に迎え、8月25日13時から16時半まで開催され、45名のJDSF－GD審判員が受講しました。

山口剛
競技本部長

佐藤隆雄
審判部長

最初に古瀬精一アンチ・ドーピング委員長から参加者全員に、JADA（公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構）発行の「PLAY TRUE BOOK アスリートガイド」が配布されました。スポーツには無限の可能性があるとして、フェアプレイ、勇気、チームワーク、他者を尊敬する姿勢など、アンチ・ドーピング関連の説明をはじめとした分り易い内容の小冊子です。

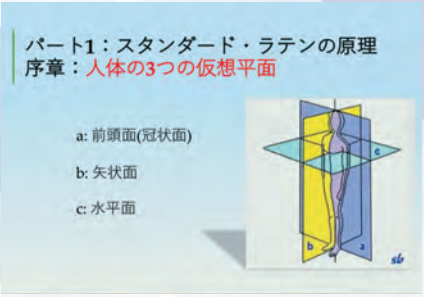
13時、山口剛競技本部長の司会進行でこの日の研修会が始まりました。冒頭、佐藤隆雄JDSF審判部長は、PDと一緒の審判の機会が多いが、まず公平でなければならない。自分に厳しく、選手に厳しくあって欲しい。審判長報告書については、具体的な氏名や問題点だけではなく、良かったことも書いてほしい」と話し、さらに、選手と審判員との接触の注意などについての要望がありました。

石原正幸＆石原蘭羅カップル

石原正幸講師：JDSF指導員競技力A級、三笠宮杯競技会スタンダード11連覇
石原蘭羅講師：JDSF指導員競技力A級、三笠宮杯競技会ラテン8連覇
現在はJDSF-PDとして現役選手に復帰、9月の仙台PDスーパーグランプリカップで優勝するなど国内・海外で活躍中。

本日の講師は、石原正幸さんと蘭羅さんのカップルです。講習テーマは“審判員から見たダンススポーツ、及びその技術”。スタンダード種目を中心に「選手がどういう勉強をしているか、選手としての立場からも話を進め、ジャッジをする時の参考にしていただければ！」と話し、前半は主にパワーポイントを使用した講義、後半は海外のトレーニングキャンプで行なわれているようなテクニックなどにも触れ、実技による応用編も含めて参加者全員で体を動かすとの話からスタートしました。

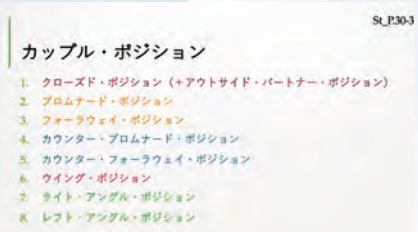
ダンススポーツ技術向上の基礎知識としてWDSF教本にある“ボディ・アクションと人体の解剖学的な考察”から“人体の3つの仮想平面”を示し、前頭面（冠状面）、矢状面、水平面（横断面）の変化で、3つの主要なボディ・アクションである、スウェイ、ローテーション、エクステンションの説明から始まりました。



現在WDSFでは多彩なステップが踊られ日々進化していますが、まず各種目の基本的な特徴を捉えた代表的なステップにより“アクションとステップ”について解説がありました。さらにスタンダードを評価する5つの基本要素についても時折実技を交えて丁寧な解説がありました。

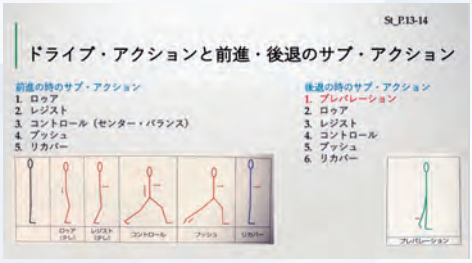
“スタンダードを評価する5つの基本要素”

1．ポジション・ポスチャー
2．テクニック
3．ミュージカリティ
4．パートナリングスキル
5．プレゼンテーション



ここから、“カップルポジション”、安定した動きをするための“ドライブ・アクションの前進と後退のサブ・アクション”など説明があり、フロアー全体を使ってワルツとスローのフォアラウエイからバウンズアクションのステップにおけるドライブ・アクション、フット・アクション等の違いについて詳しく解説したところで休憩に入りました。

後半は、スローのリバースウエーヴに関して教本に書かれていること以外でも曖昧な部分、女性は前進ですが男性の後退はヒールで送るのかトウで引っ張るのか、フォー（4）の足だけトウで引っ張る、ヒールまで足のロールアクションを使ってフォーの部分だけはロールを使わないといった細かい解説があり、全部ヒールで送るのもあながち間違いではないが、現在では、そのように踊られているといったことを解説、ヒールを高く上げることやCBMPの注意も加え、全員で動いて確認をしました。さらに、回転を始めるタイミングについて、クローズドポジションからの前進、後退の場合は基本的にはステップワンのドライブ・アクションの直前にターンが始まる、これをワルツのナチュラルターンで解説し、ナチュラルターンからランニングスピン、サイドクロスからタンブルターン、スローアウエイオーバースエイに至るルーティンを使い、全員で確認しました。



パートナリングスキルにおいて「どこでプレゼンテーションの機会があるか、見ている人に語りかけるような仕草、少しアドリブ的な動きを入れると、より魅力的な評価が得られる。

全員でナチュラルターン

模範演技

自分たちも、これはこれからの課題と考えている」とスローのルーティンを使って紹介し、参加者に披露しました。

最後にコレオグラフィー&プレゼンテーションでは、振付で「予想のできる流れと予想できないような動きをバランスよく取り入れる（振付ける）ことが大事として、タンゴのプロムナード、フォアラウエイウイスクからフットプレッシャーをうまく使ってストップロックを３回繰り返してやるような意外な動き、一つの振付の発展形、アイデア（メッセージ）も取り入れて上手くパフォーマンスできれば良い」と話し、さらにピボットのタイミングを変えて回転を加速して、チェックアクションからコントラチェックに至るステップを体験。さらにコントラチェックからチェックして後退し、ロック、ロック、ロックと３回繰り返してフォアラウエイへ繋げる石原カップル独自のステップを紹介し、全員で試みました。

全員で動いた後はまとめに入り「伝えたかった心は、選手の立場から、どういう練習をしているのか理解して、しっかり練習をしている選手を評価して欲しい」と締めくくりました。また、参加者からの質問には「自分たちカップルは、身長差もメリットにしていくような動きやアクションも研究し日々練習をしている」と率直に答えていました。

研修会の最後は、山田淳専務理事からJDSFは、フェアーな競技会を創っていきたい。不公正なジャッジを完全に排除したいとして、客観的かつ公正な審判が行なわれるような仕組み、管理について今後の課題も含めて説明があり、研修会は終了しました。

（※ステップの順序は一部省略しています）

興奮と感動の熱き競演！

21st The 21st Tokyo Open DanceSport Championships
WDSF PD Super GrandPrix Standard
WDSF World Open Standard/WDSF International Open Latin

東京オープン・ダンススポーツ選手権

駒沢オリンピック公園総合運動場 体育館

2019年3月10日(日)8:00～20:30(予定)

world DanceSport federation

JDSF Japan DanceSport Federation
JDSF公認No.190301
PD公認No.P90302
世界ランキングポイント取得競技会

チケットはインターネットからも購入できます！ e+ イープラス http://eplus.jp/jdsf/

【入場券のお申込み】JDSF会員は各所属団体へ
【一般入場券のお問合せ・お申込み】
大会事務局：〒135-0063 東京都江東区有明3-4-2 有明センタービル1階
公益社団法人日本ダンススポーツ連盟「東京オープン実行委員会」
Tel:03-6457-1858 Fax:03-6457-1857
※電話でのお問い合せは、13時～17時（土・日・祝日除く）にお願い致します
http://www.jdsf.or.jp/ 日本ダンススポーツ連盟

競技内容
WDSF PDスーパーグランプリ・スタンダード
WDSFワールドオープン・スタンダード
WDSFインターナショナルオープン・ラテン
U-23スタンダード／U-23ラテン

■主催／公益社団法人 日本ダンススポーツ連盟
■後援／スポーツ庁(申)・東京都(申)・(公財)日本スポーツ協会(申)・(公財)日本オリンピック委員会(申)・毎日新聞社(申)

スポーツ振興基金

2018ダンススポーツグランプリin仙台

《2019年WDSF世界選手権ラテン日本代表選考競技会》《2019年WDSFシニアⅠ世界選手権スタンダード日本代表選考競技会》
《2019年WDSFユーススタンダード／ユースラテン世界選手権日本代表選考競技会》

2018PDグランプリカップスタンダード

《2019年WDSF-PDスタンダード世界選手権日本代表選考競技会》

2018年9月16日(日)／仙台市青葉体育館

この日は夏の暑さが戻って来たような１日でしたが、仙台の青葉体育館のフロアではさらにヒートアップした白熱した大会となりました。ご来賓の郡和子仙台市長は、「今年も杜の都仙台でグランプリが開催されることを心から歓迎します。ダンススポーツ・ブレイキンがユースオリンピックの正式競技として開催されることは大きな関心をよび、悲願のオリンピック正式種目化も目前まで迫っています。平成から新しい時代に向けた節目の大会にこれまで培った技と力を存分に発揮していただきたい」と挨拶。渡辺ひろし仙台市議会議員は「佐々木啓宮城県DS連盟会長、村上喜一郎副会長も仙台のご出身、皆様方と一緒にダンススポーツの発展に尽くしたい。心から祈念申しあげる」と挨拶がありました。本部役員を代表して蒲生志津雄競技部長は「多くの観客が入りました。御礼申し上げます。今後とも楽しい競技会に、さらに多くの選手が参加いただけるような大会に、競技規則の変更も検討していきたい」と挨拶しました。

群和子仙台市長と
渡辺ひろし仙台市議会議員

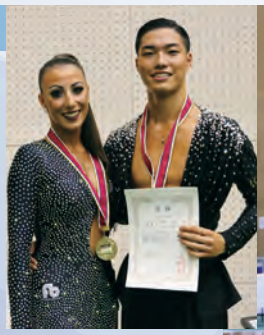
蒲生志津雄
競技部長

ダンスの香り漂う街・仙台！　佐々木啓会長はじめ宮城県DS連盟の役員スタッフの皆さまのスムーズな運営、さらに本部役員との連携も素晴らしい大会でもありました。

グランプリ　ラテン

予想通り菅原組と八谷組の対決となりました。最初のルンバで菅原組はバランスロスで0.5の減点となり、八谷組、五月女組に後れをとりましたが、他の４種目ではトップの点数を獲得し見事に逆転して優勝に輝きました。

海老原竜太・遊佐美優子組（千葉県）が決勝進出と発表されましたが、準決勝パソで転倒2.0の減点となり金井組が決勝に進出しました。岸本真レフリーから、オリンピックを目指した新審判方式の趣旨と、海老原組の0.5減点から2.0減点への変更についてビデオの再確認などの経緯について的確な説明が、場内でアナウンスされました。

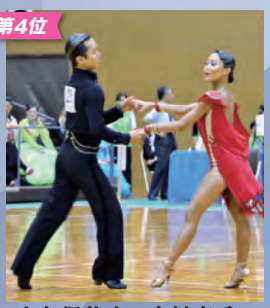


菅原選手もいよいよ来年は成人式、ラウラさんはまだ19歳。カップル歴は2年半。「最初のルンバの減点はちょっと気合いの入り過ぎでしたが、気にせず自分たちの踊るように心がけました。僕たちは八谷組などライバルがいるからこそ励みになります！　次は三笠宮杯、頑張ります！」

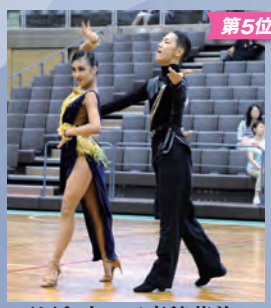
菅原一樹・Laura Collavizz 組(東京都)

八谷和樹・皆川　円 組(千葉県)

五月女光政・五月女叡佳 組
(ブルボンDST)〈グランプリ ユース ラテン優勝〉



大久保稔也・吉村春香 組
(東京都)



石垣和宏・三喜穂菜美 組
(ブルボンDST)〈グランプリ ユース ラテン準優勝〉

金井大輝・甘利このみ 組
(群馬県)

全日本選手権　シニアⅠ スタンダード

45歳と46歳のベテランカップルです。「若いシニアが強くて！でも励みになります。年齢にも打ち勝ちます。海外でも頑張ります！」

優　勝　高杉耕一・高杉綾子 組(東京都)
準優勝　野口雄一朗・奥野亮子 組(東京都)
第３位　森川豊則・鈴木悠夏 組(大阪府)
第４位　渡部正光・渡部典子 組(茨城県)
第５位　名越慎悟・名越明子 組(神奈川県)
第６位　小高修平・井上魅空 組(東京都)

優勝
高杉耕一・
高杉綾子 組(東京都)

グランプリ　ユース　スタンダード

優　勝　五月女光政・五月女叡佳 組(ブルボンDST)
準優勝　石垣和宏・三喜穂菜美 組(ブルボンDST)
第３位　松浦龍騎・松浦優莉華 組(宮城県)
第４位　太田歩生・松本京佳 組(札幌新陽高校)
第５位　安部邦斗・安部美咲 組(千葉県)
第６位　川本　竜・川本弥由 組(奈良県)

五月女光政・五月女叡佳 組
(ブルボンDST)

石垣和宏・三喜穂菜美 組
(ブルボンDST)

松浦龍騎・松浦優莉華 組
(宮城県)

JDSF B級戦

森　優月・熊谷美春 組(dsATHLETEclubMIYAGI)

川本　竜・川本弥由 組(奈良県)

グランプリ　ユース　ラテン

優　勝　五月女光政・五月女叡佳 組(ブルボンDST)
準優勝　石垣和宏・三喜穂菜美 組(ブルボンDST)
第３位　川本　竜・川本弥由 組(奈良県)
第４位　長谷川悠・安達あん珠 組(富山県)
第５位　松浦龍騎・松浦優莉華 組(宮城県)
第６位　太田歩生・松本京佳 組(札幌新陽高校)

佐藤大樹・
川合真桜子 組
(東京工業大学)

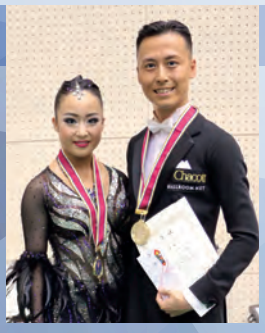
プレジュニア

石原正幸・石原蘭羅 組(東京都)

「このような大きなPDの競技会では初めての優勝です。嬉しいですが、これはまだスタート地点、満足せずに次の目標に向けてイタリアのキャンプで腕を磨いてきます！」

PDグランプリカップスタンダード

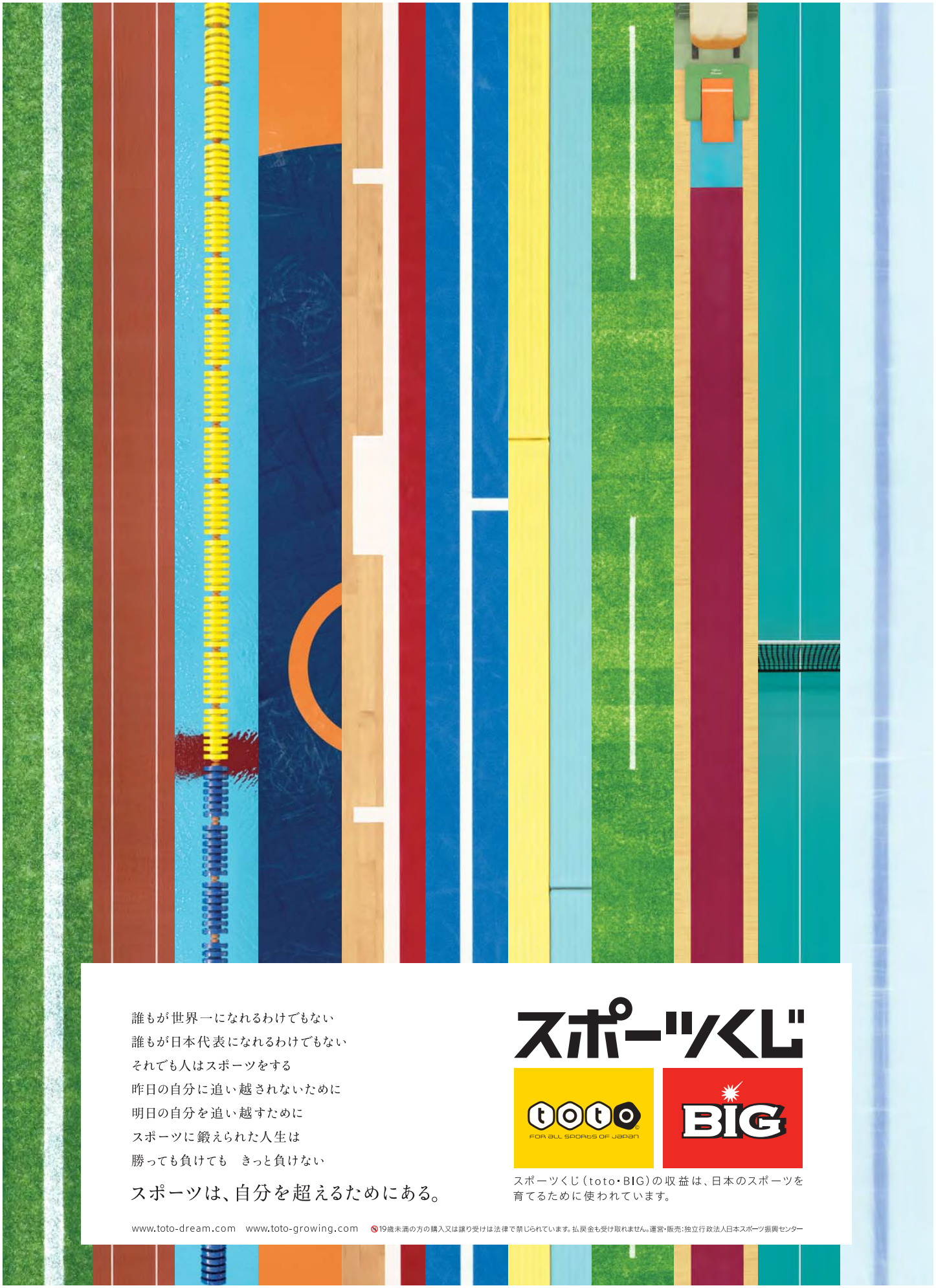
優　勝　石原正幸・石原蘭羅 組(東京都)
準優勝　グザー オレクシー・太田吏圭子 組(東京都)
第３位　久保田弓椰・徳野夏海 組(TEAM YUMIYA 北海道)
第４位　山嵜圭太・石本美奈子 組(エムズダンスアカデミー)
第５位　秋谷孝宏・田原美穂 組(エムズダンスアカデミー)
第６位　髙橋一昌・髙橋由紀子 組(幸手K&Yダンスクラブ)



グザー オレクシー・太田吏圭子 組
(東京都)

久保田弓椰・徳野夏海 組
(TEAM YUMIYA 北海道)

平成30年9月6日に発生した北海道胆振地方中東部を震源とする地震の影響で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。
9月23日北海道立総合体育センターにおいて予定の2018ダンススポーツ グランプリ in 北海道は開催が心配されましたが、会員の皆様のご尽力により、無事開催されました。



ダンス・ダンス・ダンス
第89号（AUTUMN）
平成30年11月発行

■発行人／山田　淳（公益社団法人日本ダンススポーツ連盟専務理事）
■編集長／神宮周二（公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部）
■企　画／公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部
■発行所／公益社団法人日本ダンススポーツ連盟
〒135-0063 東京都江東区有明3-4-2 有明センタービル1階　TEL.03-6457-1850　FAX.03-6457-1857
http://www.jdsf.or.jp

ⓒ本誌の記事・写真の無断転載を禁じます。